

傷を乾かさない湿潤療法の課題である感染問題の解決

- 高齢化が進み、寝たきりにより、褥瘡が発症し、感染が増え、医療現場では、院内感染が社会的な問題となっている。
- 創部が感染すると創傷治癒が遅延する。
- 消毒剤の使用は創傷治癒を遅延させ、不適切な抗生物質の使用は多剤耐性菌出現の課題がある。

抗菌活性を有する新規機能性ペプチドを含有する
抗菌性創傷被覆・保護材(医療機器)の開発

- 臨床で問題となる多剤耐性菌に対する効果がある機能性ペプチドを含有することで感染予防
- 水分の透湿性を制御した褥瘡用医療機器により、湿潤環境による創傷治癒促進
- 毛細血管の鬱血を防ぐ褥瘡用医療機器により、血流改善による創傷治癒促進

森下仁丹株式会社:培った伝統と先端技術、そして
機動力でセルフメディケーションの新時代を担う

1922年仁丹体温計を発売。以後、セルフメディケーションのコンセプトのもと救急医療用品シリーズを発売。大学等と医療機器、医薬品、健康食品に加え、カプセルを利用した工業用途の研究開発を実施している(大阪府大阪市、資本金 353,740万円、従業員数 234人)

従来の被覆材での
課題:創感染

抗菌効果

傷の治療、感染制御を
同時に可能な医療機器